

激動の時代の 1968年 芸術

Art in the Turbulent Age 1968

会期 **2018年9月19日(水)→11月11日(日)**

開館時間 10:00-18:00(金・土曜日は20:00まで) ※ 入場受付は閉館の30分前まで

休館日 10月1日(月)、11月5日(月)

観覧料 一般 1200円(960円) 大学生 700円(560円) 小・中学生、高校生無料

☆1968年割引…1968年生まれの方は観覧料500円(生年月日を確認できる証明書をご提示ください)

※障がい者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

※()内は前売り、団体20名以上、市内在住65歳以上の方の料金

※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(9月9日まで)、ローソンチケット(Lコード:35075)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて9月18日まで販売(9月19日以降は当日券販売)

※10月18日(木)は「市民の日」につき観覧料無料

主催 千葉市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

50
年
前
の
芸
術
は
こ
ん
な
に
も
熱
く
激
し
か
っ
た

展覧会概要

世界中で近代的な価値がゆらぎはじめ、各地で騒乱が頻発した1968年は、20世紀の転換点ともいべき激動の年でした。日本でも、全共闘運動やベトナム反戦運動などで社会が騒然とするなか、カウンターカルチャーやアングラのような過激でエキセントリックな動向が隆盛を極めました。近年、この時期に起こった文化現象が様々な分野で注目を集めており、「1968」は国内外で文化史のキーワードとして定着したと言えるでしょう。

1968年前後は、日本の現代美術にとっても重要な時期になりました。多くの芸術家が日本万国博覧会(大阪万博)の準備に協力する一方で、万博に参加しなかった作家や評論家の多くが、この動きを批判しました。また現代美術のみならず、演劇・舞踏・映画・建築・デザイン・漫画などの周辺領域の作家たちも、既存のスタイルを打ち破るような先鋭的な試みを次々とおこない、またジャンルを越えて協力し合ったのです。

さらにこの年には、「もの派」の嚆矢ともいべき関根伸夫の《位相・大地》が発表され、写真同人誌『プロヴォーク』も創刊されるなど、新たな世代が一気に台頭しました。学生運動やヒッピームーヴメントに代表されるような、既成の価値や体制に異議申し立てをおこなう時代の空気は、芸術家のあいだでも共有されていたのです。

本展は、1968年からちょうど半世紀が経過した2018年の視点から、この興味深い時代の芸術状況を、現代美術を中心に回顧しようとする試みです。この時代の芸術を輪切りにして展観することで、新たに見えてくるものがあるのではないのでしょうか。磯崎新、赤瀬川原平、高松次郎、0次元、横尾忠則、宇野亜喜良、寺山修司、唐十郎、シュウゾウ・アツチ・ガリバー、土方巽、林静一、森山大道、関根伸夫ら個性的な顔ぶれが縦横無尽に活躍した時代の熱い雰囲気を、この展覧会で感じ取っていただければと思います。

みどころ

☆ 絵画、写真、立体からトリックアートまで約400点を紹介

本展では現代美術を中心に、「激動の1968年」「1968年の現代美術」「領域を超える芸術」「新世代の台頭」という大きな4つのセクションに分けて約400点の作品、資料から当時の芸術状況を振り返る画期的な展覧会です。絵画や写真だけでなく、この時代の特徴ともいえる錯覚を起こすようなトリックアートや光るアート(ライトアート)といった面白い、奇妙なアートも登場します。千葉市美術館8,7階の展示フロアから溢れ出んばかりの、大規模で充実した展示をお見逃しなく。

☆ 伝説のディスコ MUGEN のライトショーが復活!

1968年にオープンしたサイケデリックディスコの代表格「MUGEN」。三島由紀夫や川端康成、澁澤龍彦、横尾忠則、宇野亜喜良といった各界の有名人が夜毎訪れた伝説のディスコです。強烈な色彩と音楽の中、オイルが蠢くようなサイケデリックなライティング・ショーが行われていました。本展では MUGEN プロデューサー浜野安宏の協力のもと、その当時のライティング・ショーをマルチプロジェクトで再現!熱い時代を展示室で体験してください。



MUGENでのライトショー
(イメージ)

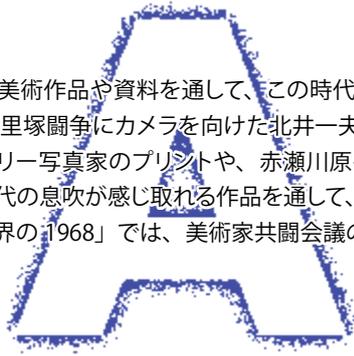
☆ 「1968」を知る・感じるイベントを開催

1968年当時の様子を知ることができるイベントを多数開催します。1968年当時から現在まで活躍している美術家のシュウゾウ・アツチ・ガリバー氏による1968年に初演されたパフォーマンスの上演や、美共闘の議長としても活動した堀浩哉氏による講演会、また伝説のディスコ MUGEN のプロデューサー浜野安宏氏による講演会で生の声を聞くことができるでしょう。また当時の国内の状況・風景を垣間見ることができる映画も上映します。

セクション紹介

激動の1968年

最初のセクションでは、美術作品や資料を通して、この時代の熱い雰囲気的一端をお見せします。日大闘争や三里塚闘争にカメラを向けた北井一夫や東大闘争に身を投じた渡辺眸などのドキュメンタリー写真家のプリントや、赤瀬川原平の漫画原画や木村常久のフォト・コラージュなど時代の息吹が感じ取れる作品を通して、この年の動きを追います。またサブセクション「美術界の1968」では、美術家共闘会議のアジビラやポスターも展示します。



娑婆留闘社《獄送漫画通信(三)》1970年 千葉市美術館蔵 ©1970 Akasegawa Genpei



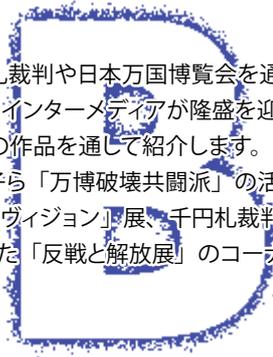
羽永光利《新宿西口フォークゲリラ》1969年 羽永太朗蔵



山下菊二《海を渡る捕虜服》1968年 豊橋市美術博物館蔵

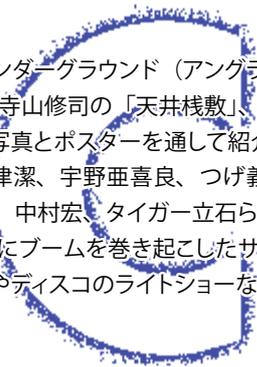
1968年の現代美術

この時期の現代美術は、千円札裁判や日本万国博覧会を通して、国家と直接対峙しました。万博を前にして、環境芸術やインターメディアが隆盛を迎えた1968年ころの熱気を、磯崎新、山口勝弘、吉村益信らの作品を通して紹介します。彼らの万博参加を真っ向から批判した0次元、秋山祐徳太子ら「万博破壊共闘派」の活動や、「もの派」誕生の契機となった「トリックス・アンド・ヴィジョン」展、千円札裁判をとともに闘った針生一郎と赤瀬川原平らの論争を引き起こした「反戦と解放展」のコーナーもあります。



領域を超える芸術

1968年には、いわゆる「アンダーグラウンド（アングラ）」と呼ばれた演劇、実験映画と舞踏が隆盛を迎えました。演劇では寺山修司の「天井桟敷」、唐十郎の「劇団状況劇場」、舞踏では土方巽の「肉体の叛乱」を、写真とポスターを通して紹介します。またイラストレーションや漫画の分野では、横尾忠則、粟津潔、宇野亜喜良、つげ義春、林静一ら本職の作家たちの活躍はもちろんのこと、赤瀬川原平、中村宏、タイガー立石ら現代美術家たちも、本格的にこの分野に進出しました。またこの時期にブームを巻き起こしたサイケデリック・ムーヴメントの一端を、田名網敬一のグラフィック作品やディスコのライトショーなどを通して紹介します。



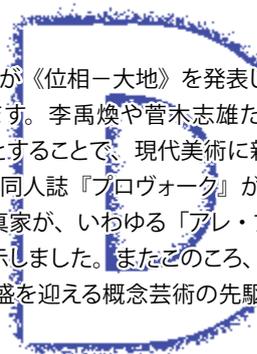
横尾忠則《新宿泥棒日記》1968年 高松市美術館蔵 ©横尾忠則



関根伸夫《位相-大地》1968/1986年 静岡県立美術館蔵

新世代の台頭

1968年、関根伸夫が《位相-大地》を発表したことをきっかけに、「もの派」が登場します。李禹煥や菅木志雄たちは、石や木などの素材をそのまま作品とすることで、現代美術に新しい世界を拓きました。この年には、写真同人誌『プロウォーク』が創刊され、森山大道、中平卓馬らの若手写真家が、いわゆる「アレ・プレ・ボケ」と評される新しい写真表現を示しました。またこのころ、松澤宥、高松次郎らにより、70年代に隆盛を迎える概念芸術の先駆的作品も生み出されました。



記者レクチャー

一般公開に先駆けて報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーおよび内覧会を行います。展示会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

9月18日(火)／14:00より(1時間程度)／8階展示室にて

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

また、展示会の開催に伴いオープニングレセプションを行います。ぜひご参加ください。

9月18日(火)／16:00より／11階講堂にて

展示会関連イベント

■講演会とパフォーマンス

「**し・c・4ーガリバー 1968 を語る**」

講師：シュウゾウ・アツチ・ガリバー（美術家）

パフォーマー：シュウゾウ・アツチ・ガリバー、荒木悠、Lily Shu

9月29日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／聴講無料／先着150名(当日12:00より11階にて整理券配布)

1968年ころ、エクспанデッド・シネマ、パフォーマンスなど、分野を越えて活躍したシュウゾウ・アツチ・ガリバー。当時の活動について紹介するとともに、1968年初演のパフォーマンス《し・c・4》を上演。

■講演会

「**1968年 前衛の終焉ー美共闘 廃墟からの出発**」

講師：堀浩哉（美術家）

10月6日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／聴講無料／先着150名(当日12:00より11階にて整理券配布)
美術大学における全共闘運動として、多摩美術大学の学生によって結成された美術家共闘会議(美共闘)。美共闘議長だった堀浩哉が、当時の運動の意味と60年代末から展開した制作活動について語る。

■講演会

「**サイケの HAMANO、サイケとその後の世界を語る**」

講師：浜野安宏（ライフスタイルプロデューサー）

10月20日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／聴講無料／先着150名(当日12:00より11階にて整理券配布)
1968年当時、「MUGEN」、「アストロメカニカル」などのサイケデリック系ディスコや、サイケデリック・ショップ「ジ・アップル」をプロデュースし、草月会館ホールで横尾忠則らと「サイコデリシャス」というショーを行った浜野安宏。日本のサイケの第一人者が半世紀前を振り返る。

◆イベントの変更、中止につきましてはホームページをご確認ください。

■映像上映会

「**略称 連続射殺魔**」

監督：足立正生(1969年、86分)

10月27日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／参加無料／先着150名(当日12:00より11階にて整理券配布)

19歳の連続射殺犯永山則夫が見たであろう1968年ころの日本の風景を追った映画。

■映像上映会

「**新宿泥棒日記**」

監督：大島渚(1969年、94分)

11月4日(日) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／聴講無料／先着150名(当日12:00より11階にて整理券配布)

1968年の新宿を舞台に、主演の横尾忠則、唐十郎、俳優、学者、会社社長らが実名で登場するドキュメンタリータッチの映画。

■市民美術講座

「**環境芸術とミニマル・アート**」

講師：水沼啓和(当館主任学芸員)

10月13日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／聴講無料／先着150名

「**アンダーグラウンドとサイケデリック**」

講師：水沼啓和(当館主任学芸員)

11月10日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／聴講無料／先着150名

■ギャラリートーク

担当学芸員による：9月19日(水) 14:00より

ボランティアスタッフによる：

会期中の毎週水曜日(9月19日を除く) 14:00より

※水曜日以外の平日の14:00などにも開催することがあります。

※混雑時には中止する場合があります。

さや堂ホール展示プロジェクト

「地球の告白」

11月1日(木)ー11日(日)＊11月5日(月)休館

10:00-18:00(金・土曜日は20:00まで)／1階さや堂ホールにて／観覧無料

表現者／研究者として、芸術から学術まで領域横断的な活動を行っているハナムラチカヒロの個展を開催。本年から50年前にあたる1968年に、アポロ8号によって初めて人類は外から地球を風景として眺めた。普段は見えない地球にまなざしを向け、その上で共に生きる私たちの心を見つめ直すような展示を行う。

次回展予告

2018年11月23日(金・祝)～2019年1月14日(月・祝)

企画展「生誕135年 石井林響展ー千葉に出づる風雲児」

所蔵作品展「林響とその周辺」



石井林響《童女の姿となりて》
明治389年(1906) 東京都現代美術館蔵

「1968年 激動の時代の芸術」 広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1. 娑婆留闘社《獄送檄画通信(三)》1970年
千葉市美術館蔵 ©1970 Akasegawa Genpei



2. 羽永光利《新宿西口フォークゲリラ》1969年
羽永太郎蔵



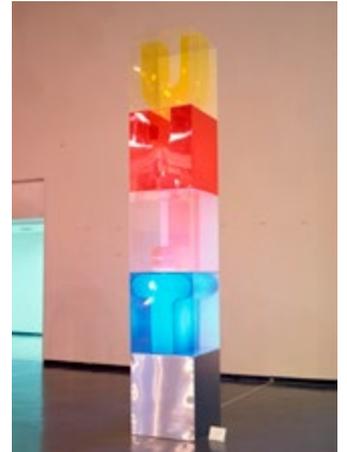
3. 山下菊二《海を渡る捕虜服》
1968年 豊橋市美術博物館蔵



4. 鶴岡政男《ライフルマン》1968年 広島県立美術館蔵



5. 横尾忠則《新宿泥棒日記》1968年
高松市美術館蔵 ©横尾忠則



6. 山口勝弘《Sign Pole》
1968年 高松市美術館蔵



7. 田名網敬一《ジェファーソン・エアプレイン ヒッピーの主張》
1968年 NANZUKA蔵



8. 関根伸夫《位相一大地》1968/1986年 静岡県立美術館蔵

「1968年 激動の時代の芸術」
 広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1申込について1回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
 広報担当 磯野 行
 FAX：043-221-2316
 E-mail：isono@ccma-net.jp

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small>

■ 画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

1. 娑婆留闘社《獄送檄画通信(三)》1970年 千葉市美術館蔵 ©1970 Akasegawa Genpei
2. 羽永光利《新宿西口フォークゲリラ》1969年 羽永太朗蔵
3. 山下菊二《海を渡る捕虜服》1968年 豊橋市美術博物館蔵
4. 鶴岡政男《ライフルマン》1968年 広島県立美術館蔵
5. 横尾忠則《新宿泥棒日記》1968年 高松市美術館蔵 ©横尾忠則
6. 山口勝弘《Sign Pole》1968年 高松市美術館蔵
7. 田名網敬一《ジェファーソン・エアプレイン ヒッピーの主張》1968年 NANZUKA蔵
8. 関根伸夫《位相―大地》1968/1986年 静岡県立美術館蔵

■ プレゼント用招待券申込

(ご希望の場合はチェックをつけてください)

5組 10名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。)

チケット送付先
 ご住所：〒

問い合わせ先

千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

広報担当：磯野 愛

Tel. 043-221-2311(代表) / 043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

E-mail. isono@ccma-net.jp

HP. <http://www.ccma-net.jp/>